

特別活動

特別活動においては、主権者として積極的に社会参画する力を育むことが課題です。そのため、社会の形成者である主権者に求められる資質・能力を明確にすること、児童の自発的、自治的な活動となるよう一連の学習過程を整理すること、問題の発見や話し合いにおいてICTを効果的に活用したり、学校全体で共通の指導を行い、特別活動における学びを積み重ねていくことが大切です。

I 目標の明確化や評価の充実のポイント

社会参画する力を育むためには、学習指導要領を踏まえ、発達の段階に即した目指す児童の姿を設定し、評価規準や評価方法・場面等を共有して指導を積み重ねていく必要があります。とりわけ、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の一つである「主権者として求められる力」については、児童にとって一番身近な社会である学級や学校の生活の充実と向上を図ることを目指す、学級活動(1)における話し合い活動や、児童会活動、学校行事の勤労生産・奉仕的行事などを通して、次のような資質・能力を育成することが重要です。

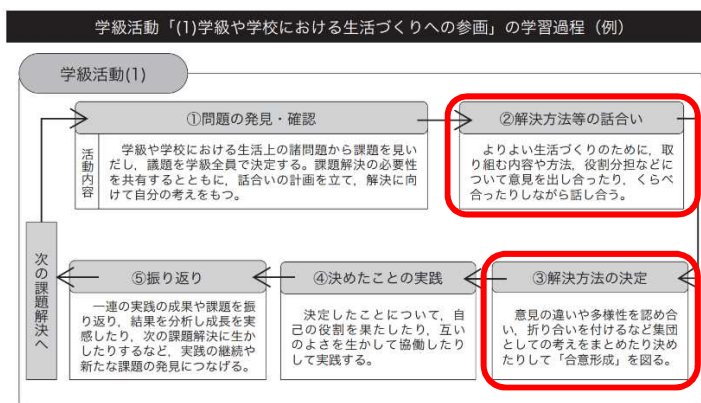
【社会の形成者である主権者に求められる資質・能力】

- ①集団や社会における人間関係をよりよく形成する「人間関係形成」
- ②自分たちの集団の生活上の課題解決に向けた自発的、自治的な関与である「社会参画」
- ③なりたい自分やよりよい自分を目指し、目標をもって取り組む「自己実現」

II 指導計画の改善のポイント

社会参画する力を育むためには、児童が自発的、自治的に活動に取り組むことができるよう、活動を振り返る場や機会を適切に設定し、実践を振り返る中で気付いたよい点や改善点を生かして次の活動や課題解決につながる動機付けを行っていくことが大切です。

右図の②や③の活動が学級活動(1)の授業で扱われますが、教師は、授業時間以外の休み時間や放課後等の活動も視野に入れて計画を立てるとともに、児童の自発的、自治的な活動となるよう、見直しをもたせ、価値付けることが重要です。



【小学校学習指導要領解説特別活動編P45】

III 手立ての充実のポイント

問題の発見・確認や解決方法等の話し合いを行う際には、例えば、1人1台端末を活用して意見を収集したり、思考ツール等を用いて意見を共有し、練り合い、合意形成を図ったりするなど、自発的、自治的な活動を意識しながら、ICTを効果的に活用することが考えられます。

また、特別活動の指導を行う際には、知識や技術を教授するのではなく、各教科等において学習したことも含めて、特別活動の実践活動や体験活動を通して体得させていくようにする必要があります。各学校においては、児童が基本的な学習過程を繰り返し、特別活動における学びが積み重なるよう、次のような取組により、教師が共通の指導を行う必要があります。

- 「小学校特別活動映像資料」などを活用し、学校全体で共通理解を図り、共通した指導を行うこと
- 特別活動主任を配置し、研修や授業実践を行い、学校全体の取組の充実を図ること
- 学習過程に応じて1人1台端末を活用する場面や活用する内容を学校全体で検討すること
- 話し合い活動等の経験積み重ねを中学校へ引き継ぐ連携体制を構築すること

主権者として積極的に社会参画する力を育む計画の改善

< 議題 >

「みんなの生活を楽しくする係活動」

< 評価規準 >

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
①当番活動との違いなど、みんな で楽しい学級をつくるために他 者と協働して係活動に取り組む 意義を理解している。 ②創意工夫を生かした活動に必要 な方法を身に付けている。	①学級生活の向上に役立つ活動を 考え、協力し合って実践している。	①自分たちが学級のためにできる 活動を見付け、見通しをもった り振り返ったりしながら取り組 もうとしている。

< 指導計画 >

学習過程	○ 学習活動 ・ 指導上の留意点	□ 評価規準 ・ 評価方法等
事前 (休み時間、 放課後や帰りの会など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活の中で気付いた問題について発見し、学級会で話し合う議題案を集める。 ・意見箱の設置や1人1台端末を効果的に活用し、日常的に議題案を収集する。 ○ 計画委員会で選定した議題案をもとに、学級全員で議題を決定する。 ・教育課程に関することは扱わないなど、教師の適切な指導の下、議題を選定し、全員で議題を決定することにより、児童の学級づくりへの参画意識を高める。 ○ 活動計画の作成及び学級活動コーナーへの掲示を行い、学級全体の問題意識を高める。 ・事前に議題を掲示することにより、他の学級や学年の取組について事前に調査するなど、学級活動の話合いに向けての自主的な取組が助長されるようにする。 	<p>□ 評価規準 ・ 評価方法等</p> <p>[主①] 観察、対話 ・調査の様子や自分のできそうなことについて考えているか確認</p>
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなで楽しい学級をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解する。 ・教師は、活動の意図を明確にするとともに、児童が係の役割を果たすことにより、どのようなことが期待されるかについて確認する。 ○ 一人一人が多様な考えを発表し、共通点等を明確にしながら解決方法等について話し合う。 ・具体的な児童の姿をいくつか想定しておく。 ○ 所属する係の決定について合意形成を図る。 ・他者と協働して係活動に取り組むことや1人1人のよさが発揮されるように配慮する。 	<p>[知・技①] 発言、端末記録 ・係活動に取り組む意義を理解しながら話合いをしているか確認</p>
事後の活動 (休み時間など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 係ごとに決めたことの実践を行う。 ・係ごとに創意工夫をしながら活動を行えるよう、教師は児童の創意工夫している点や児童が自分のよさに気付けるように価値付ける。 ○ 一連の活動を振り返り、次の活動に生かす。 ・1人1台端末を活用し、活動の記録や振り返りの記録を蓄積し、それらの記録を基に次の学習課題について考える。 	<p>[思・判・表①] 行動観察、端末記録 ・協力し合って実践しているか確認</p> <p>[知・技②] 行動観察、端末記録 ・創意工夫をした活動を行っているか確認</p> <p>[主①] 行動観察、端末記録 ・自己調整を図りながら活動に取り組んでいるか確認</p>

【Ⅲ学校で共通した取組、ICTの活用】

- ・児童による自発的・自主的な活動に向け、学校全体で児童が日常の中から問題に気付くことができるよう環境整備を行っている。
- ・ICTを活用して議題を収集し、全員で決定した議題を掲示するなどの工夫を行っている


【Ⅰ評価規準の明確化】

- ・主権者に求められる資質・能力を踏まえ、話合いにおける目指す児童の姿を想定するとともに、評価方法や場面等について明確にしている。

【Ⅱ実践の振り返り】

- ・1人1台端末やキャリア・パスポートに振り返りの記録を蓄積することにより、自己有用感や自己効力感を高め、次の活動につながる動機付けを行うなど、学びを積み重ねることができるようにしている。

【参考資料】
「小学校特別活動映像資料 <学級活動編>」
(国立教育政策研究所)



令和4年3月

